

第21回岐阜県国保地域医療学会

地域包括医療・ケアを支える  
まちづくり

11月20日(日)、ふれあい福寿会館において開催しました。本学会は、21回目を迎えて志も新たに、地域医療及び地域包括ケアの実践の方途を探求するとともに、関係者の相互理解と研鑽を図るために、「地域包括医療・ケアを支えるまちづくり」をテーマとして、研究発表、特別講演、シンポジウムを展開し、国保診療施設職員及び関係者等、250名の出席がありました。



開会式では、須原貴志学会長(下呂市立金山病院長)より開会あいさつ、次に岐阜県国保診療施設協議会の黒木嘉人会長(国保飛騨市民病院長)と本会の小川敏理事(大垣市長)から主催者あいさつを述べました。続いて、来賓を代表して岐阜県健康福祉部の森岡久尚次長よりあいさつがあり、ご臨席いただいた岐阜県国保診療施設開設者協議会の日置敏明会長(郡上市長)と、岐阜県市町村保健活動推進協議会保健師部会の小洞尚子副部会長(飛騨市)の紹介がありました。

保診療施設の医師・看護師、市町村保健師等から日頃の研究や活動結果などに関する48演題の発表が行われ、各会場では聴講者から活発な質疑が出るなど熱気に包まれていました。午後の特別講演は、東近江市永源寺診療所の花戸貴司所長により、「住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるために」をテーマとした講演が行われ、花戸所長は「地域包括医療・ケア」をテーマとし、東近江市永源寺地域における地域まるごとケアの取り組みを紹介されました。

その中で、「年をとっても自分らしい生活を地域で継続していきたい」という患者からの声がある。そのためには、病や老いを受け入れて悩むというところが大切かもしれない。悩むのは1人で悩むのではなく、医療者・介護者以外にも一緒に悩んでくれる人たちが、共に支えてくれる人たちが地域にたくさんいて、年をとっても認知症になっても安心して生活が継続できる、そういった地域コミュニティが必要である。何でも地域の人たちみんなで、地域の人たちみんなを支えようということが地域まるごとケアである。」と述べられました。

室、気軽に交流・相談できる場の運営、みんなで見守る体制づくりなどの取り組み状況の発言があり、特別発言者の花戸所長から各取り組みに対して助言がありました。続いて、午前の部の研究発表の中から4名の優秀研究発表者が選ばれ、須原学会長から表彰状が授与されました。その後の閉会式では、次年度の第22回岐阜県国保地域医療学会長の廣瀬英生(県北西部地域医療センター)国保和良診療所長から開催に向けたあいさつが行われ、最後に川尻副学会長の閉会のあいさつで全日程を終了しました。



副学会長 川尻宏昭  
(高山市国保高根診療所長)



次期学会長 廣瀬英生  
(県北西部地域医療センター)  
国保和良診療所長

<特別講演>

演題 「住み慣れた地域で、安心して暮らし続けるために  
～永源寺の地域まるごとケア～」

講師 東近江市永源寺診療所長 花戸 貴司

司会者 第21回岐阜県国保地域医療学会長 須原 貴志



花戸貴司所長

<シンポジウム>

テーマ 「支えあい 助けあう まちづくり」

司会者 岐阜県国民健康保険診療施設協議会長 黒木 嘉人  
第21回岐阜県国保地域医療学会副学会長 川尻 宏昭

特別発言者 東近江市永源寺診療所長 花戸 貴司

発言者 飛騨市長 都竹 淳也  
恵那市国保上矢作歯科診療所長 石黒 幸司  
国保坂下病院講師 健康運動指導士 置名 愛  
飛騨地区認知症カフェ実行委員会委員長 高井 道子  
東白川村保健師 桂川のぞみ



発言者



<優秀研究発表者表彰式>

最優秀

多職種での情報共有のための共通連携ノート作成に取り組んで

郡上市役所健康福祉部高齢福祉課 地域包括支援センター  
主任介護支援専門員 安田 幸二氏

優秀

「今、そこにある危険を感じて」糖尿病予備群ドタバタ劇

下呂市立金山病院 看護師 石田 寿恵氏

在宅支援におけるチャットを活用した多職種連携

国保飛騨市民病院 理学療法士 巢之内 大輔氏

5S活動で進める医療ミス・事故防止、健全経営への取り組み

国保飛騨市民病院 医師 工藤 浩氏

